

ルーキーたちの世界選手権

木村佳司

スキースキーオリエンテーリング世界選手権大会 2011年3月21-27日 スウェーデン

スキースキーオリエンテーリング
世界選手権は高校生たちの
世界デビュー戦でもあった

スキースキーオリエンテーリング世界選手権
2011年3月21-27日
スウェーデン国・テンダーレン

高校生・世界デビュー戦

女子スプリント結果 2011年3月22日

1	Tove Alexandersson	SWE	15:11
2	Helene Soderlund	SWE	15:14
3	Liisa Anttila	FIN	15:24
30	酒井佳子	日本	20:41
37	高橋美和	日本	23:34
43	渡辺志保	日本	29:25
46	島貫なつみ	日本	33:21

日本勢は順当な結果といえよう。初めて世界選手権のレースに挑んだ女子高校生には世界とのカベを感じる結果となった。特に島貫なつみは初めての世界の舞台でトップスタートのプレッシャーとなった。

ベテラン・酒井佳子は世界選手権の自己最高順位を更新することはできなかった。高橋美和は今の実力からすればかなりよいレースだったようだ。

男子スプリント結果 2011年3月22日

1	Olli-Markus Taivainen	FIN	18:04
2	Staffan Tunis	FIN	18:07
3	Peter Arnesson	SWE	18:27
44	堀江守弘	日本	24:02
53	黒田幹朗	日本	26:24
62	渡辺 幸	日本	33:00
76	高橋謙也	日本	1:02:55

日本勢はいまひとつという結果といえよう。堀江は世界選手権の自己最高順位を更新することはかなわなかった。黒田は伸びてきた実力を発揮できたようだ。渡辺も順当なところか。高橋は初めての世界の舞台で戸惑っただろう。

吹雪のミドル競技

選手たちは降り続く新雪に悪戦したようだ。

「トラックネットワークが見えにくかった。」「難しかった。」

そんなコメントがフィニッシュした選手から聞かれた。

トレインはのっぺりとした片斜面で地形的特徴に乏しい。そんなトレイン



ルーキーの渡辺志保（左）とベテランの高橋美和（右）

に刻まれた非常に細かいトラックネットワーク。ただでさえ難しいトレインに大雪がどんどん降り積もりトラックネットワークをより見にくくしている。日本選手も悪条件に悩まされたようだ。



ミドル種目を滑る日本女子のエース酒井佳子。コース前半スキースポールが故障。クロスカントリースキーの推進力が大きく失われた。コース中盤の器具の公式交換所にて予備のスキースポールを得たものの、高橋美和選手に日本人トップの座を譲る結果となった。

女子ミドル種目 2011年3月23日

1	Polina Malchikova	RUS	0:39:52
2	Alena Trapeznikova	RUS	0:40:27
3	Stine Olsen Kirkevik	NOR	0:40:28
9	Olga Novikova	KAZ	0:44:59
31	高橋美和	日本	1:01:39
33	酒井佳子	日本	1:02:07
39	白鳥桂子	日本	1:14:09
45	島貫なつみ	日本	1:32:35

男子ミドル種目 2011年3月23日

1	Staffan Tunis	FIN	0:40:13
2	Andrei Lamov	RUS	0:40:35
3	Peter Arnesson	SWE	0:41:42
22	Mikhail Sorokin	KAZ	0:46:24
45	堀江守弘	日本	0:55:46
64	黒田幹朗	日本	1:06:42
65	渡辺 幸	日本	1:07:27
70	高橋謙也	日本	1:15:33

タフだったロング競技

男子ロング種目 2011年3月25日 19.1km

1	GRIGORYEV Andrey	RUS	1:42:43
2	TUNIS Staffan	FIN	1:42:46
3	BARCHUKOV Vladimir	RUS	1:43:21
35	堀江守弘	日本	2:07:52
49	黒田幹朗	日本	2:24:17
51	渡辺謙也	日本	2:26:07
	渡辺 幸	日本	DISQ



スキーオリエンテーリングのロング競技はマススタートで行われる。最初にフィニッシュに飛び込んで来た者が優勝者だ。実にシンプル。競技はワンマンリレー方式で行われる。フォーキングによりコントロールを散らせてある。追走に頼るとひどい目に合う。

女子ロング種目 2011年3月25日 13.4km

1	SODERLUND Helene	SWE	1:20:52
2	KOZLOVA Tatyana	RUS	1:22:28
3	REENAAS Marte	NOR	1:23:01
35	高橋美和	日本	2:03:23
39	渡辺志保	日本	2:10:08
41	白鳥桂子	日本	2:16:21
43	島貫なつみ	日本	2:38:17

日本選手は軒並み 2 時間超えのタフなレース展開になった。スキー技術と体力のウエイトが高いロング競技はかなりの消耗戦となる。また道具の重要性も高くなる。スキー板やワクシング、ピットクルーの重要性が高いのもこのロング競技だ。



ロング種目で同時に地図交換する日本女子選手（左：高橋美和、右：白鳥桂子）

新種目！混合リレー

混合リレー種目 2011年3月24日

1	ロシア	1:05:19
2	スウェーデン	1:05:59
3	フィンランド	1:06:04
4	ノルウェー	1:06:23
5	チェコ	1:08:37
6	カザフスタン	1:09:20
7	スイス	1:10:50
8	リトアニア	1:14:19
9	ウクライナ	1:15:05
10	ルーマニア	1:16:16
11	オーストリア	1:18:53
12	アメリカ	1:19:25
13	ベラルーシ	1:21:00
14	ドイツ	1:22:39
15	スロバキア	1:24:36
16	日本	1:26:31
17	ハンガリー	1:33:37
18	ニュージーランド	1:35:34
19	スペイン	1:44:29
20	イギリス	1:51:45
21	キルギスタン	2:57:11
	ブルガリア	DNF
	イタリヤ	DISQ

今回の世界選手権から新種目が登場した。それが「混合リレー」だ。各国の代表男女各 1 名がリレー形式でそれぞれ 3 回、合計 6 回滑るリレー競技だ。

トライアスロン競技にオリンピックディスタンス種目が作られたように、この種目もオリンピックでの TV 中継を想定して作られた競技である。

各国の男女エースが一堂に会して激突するオールスターゲームである。この競技を見ればその国の実力が判るといっても過言ではないだろう。

日本チームは堀江守弘と高橋美和が出場した。女子エースの酒井佳子は残念ながら都合で帰国の途についておりこの種目には参加できなかった。

日本は何とか中堅国の最後に食らいついているといった状態で、調子が良ければ大きく順位を伸ばすことも可能な種目である。

もつれたトップ争いは最後の最後にロシアが大逆転優勝。ロシア、スウェーデン、フィンランド、ノルウェーの 4 強が激突し順位がめまぐるしく変動する混合リレー競技だった。

アジアの雄となったカザフスタンはなんと 6 位。ミハエル・サロキンたちの壁はとてつもなく高いことが良く判る。

フィンランドのマッティが森を滑り抜ける後ろをインターネットライブカメラが追いかける。なかなか見られない迫力の映像だった。

あのスピードで木々の間を滑り抜ける技術も素晴らしいものだが、いったいいつ地図を読んでいるのか全くわからない。まさに神業だ。そんなマッティを追いかけるカメラマンも素晴らしいと思える映像だった。

(木村佳司)